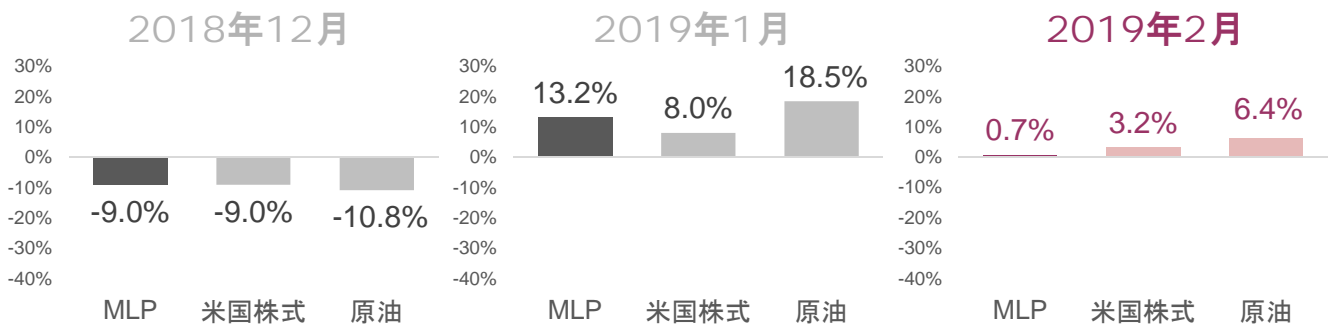


■ 当月のS&P MLP 指数の動き

2月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+0.7%と2か月連続で上昇しました。

金融市場では、通商摩擦を巡る米中の交渉進展への期待が広がったことや米金融政策がより慎重に進められるとの見方が広がったことなどを背景に、投資家心理が改善する展開となりました。米長期金利が安定的に推移する中、米国株式市場や原油価格の上昇などにも後押しされ、MLPは中旬にかけて上昇基調となりました。ただし月末にかけては、米長期金利の上昇などを受け、MLPは利益確定売りが広がる展開となりました。

■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



■ 主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2019/2/28	2019/1/31	2018/11/30	2018/12/31	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	4,610.55	4,579.99	4,449.64	4,047.51	0.7%	3.6%	13.9%
プライスリターン	1,416.13	1,423.04	1,394.21	1,268.20	-0.5%	1.6%	11.7%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	5,556.49	5,383.63	5,478.91	4,984.22	3.2%	1.4%	11.5%
プライスリターン	2,784.49	2,704.10	2,760.17	2,506.85	3.0%	0.9%	11.1%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	863.30	841.26	866.99	757.14	2.6%	-0.4%	14.0%
プライスリターン	479.94	470.81	486.42	424.07	1.9%	-1.3%	13.2%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,335.91	1,330.35	1,295.80	1,190.35	0.4%	3.1%	12.2%
プライスリターン	322.65	322.06	316.51	288.67	0.2%	1.9%	11.8%
米国ハイイールド債 (ICE BofA Merrill Lynch 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,312.05	1,290.27	1,261.25	1,233.61	1.7%	4.0%	6.4%
プライスリターン	75.51	74.65	73.78	71.75	1.2%	2.3%	5.2%
米国10年国債利回り	2.71%	2.63%	2.98%	2.68%	0.08	-0.27	0.03
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり	57.22	53.79	50.93	45.41	6.4%	12.4%	26.0%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	2.81	2.81	4.61	2.94	-0.1%	-39.0%	-4.4%
米ドル(対円)	111.39	108.89	113.57	109.69	2.3%	-1.9%	1.5%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■当月の出来事いろいろ

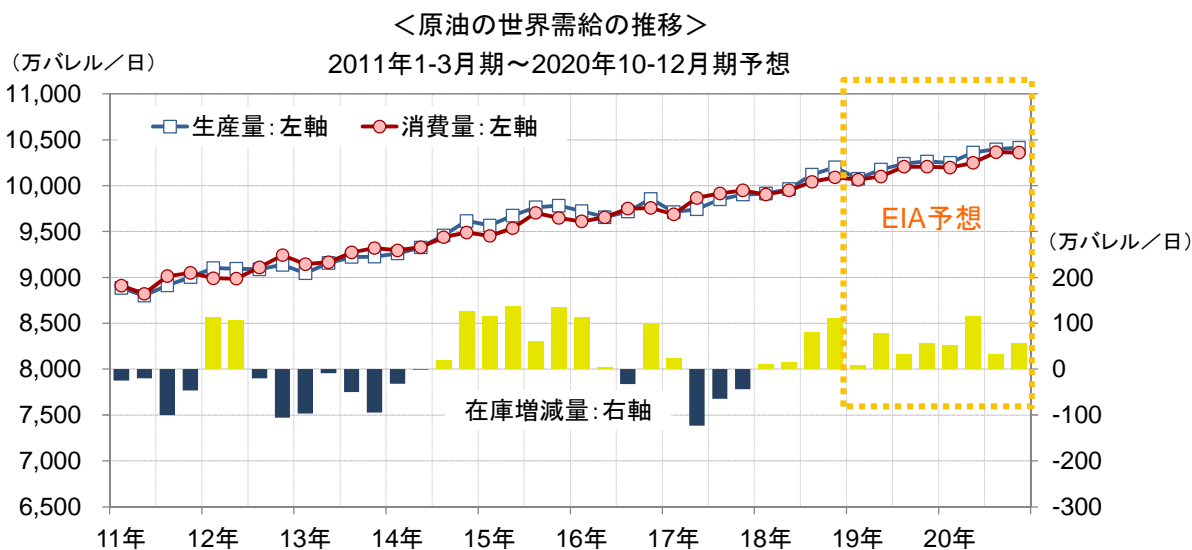
- S&P MLP 指数は、原油価格が上昇し、WTIで1バレル＝55米ドル台を回復する中、MLPの良好な決算発表なども支援材料となり、中旬にかけて上昇基調を強めた。
- 12日、OPEC(石油輸出国機構)は月報の中で、世界的な減産協定に基づき、1月に大幅な減産を実施したことを発表。また、世界最大級の産油国サウジアラビアが、3月までに原油の生産・輸出を一段と減らす方針を示した。
- 米中協議進展への期待とともに、OPEC加盟・非加盟国による協調減産への期待の拡がり、原油価格を大きく押し上げる要因となった。
- 25日、足元の原油価格の上昇傾向を受け、トランプ米大統領がSNS上で価格の上昇をけん制するコメントを発表。22日に57米ドルを付けたWTI原油先物価格は、25日に大きく反落した。
- 米エネルギー情報局が発表する週間統計によると、米原油生産は、足元で過去最高水準での推移が続いており、こうしたことも、月末にかけて原油価格の上昇を抑える背景となった。

■今後の注目点

- 引き続き、トランプ米大統領による原油上昇をけん制する発言や、世界的な景気減速に伴う原油需要の伸びの鈍化懸念などが、原油価格の上昇を抑制する要因になるとみられる。
- OPEC加盟・非加盟国による協調減産や米国によるベネズエラ制裁に伴う需給の引き締め観測が、原油価格の下支え要因となることが見込まれる。

■原油の世界需給動向

EIA(米エネルギー情報局)が、12日に公表した短期エネルギー見通しによると、世界の原油需要の鈍化などを背景に、2019年から2020年にかけて、原油在庫の増加が続く見込みとなっています。



EIAのデータ(2019年2月12日発表分)などをもとに日興アセットマネジメントが作成

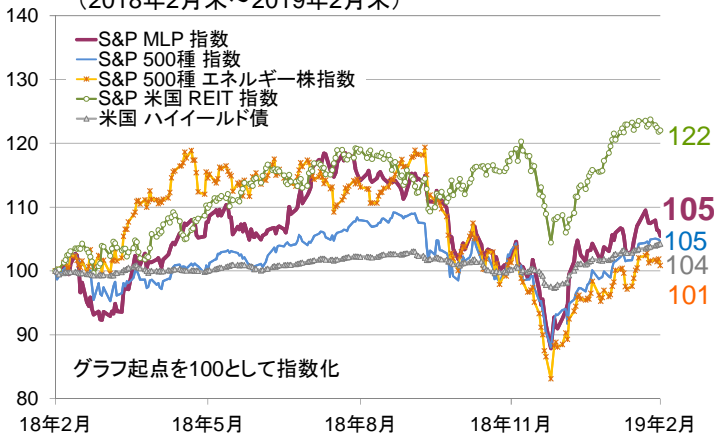
※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

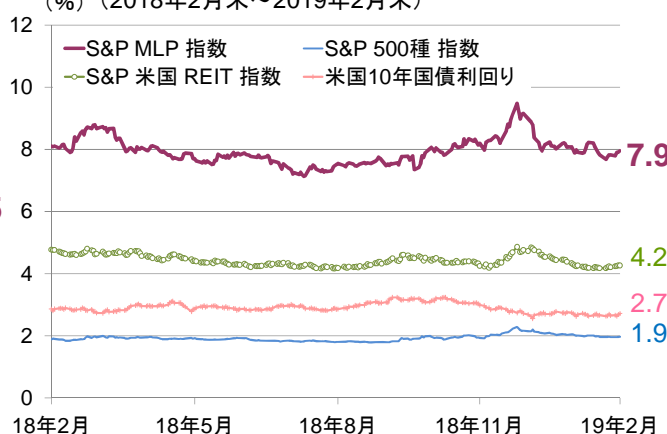
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2018年2月末～2019年2月末)



■各資産の利回り

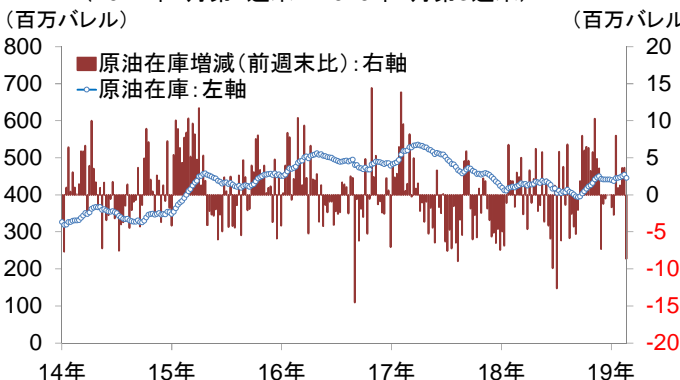
(%) (2018年2月末～2019年2月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

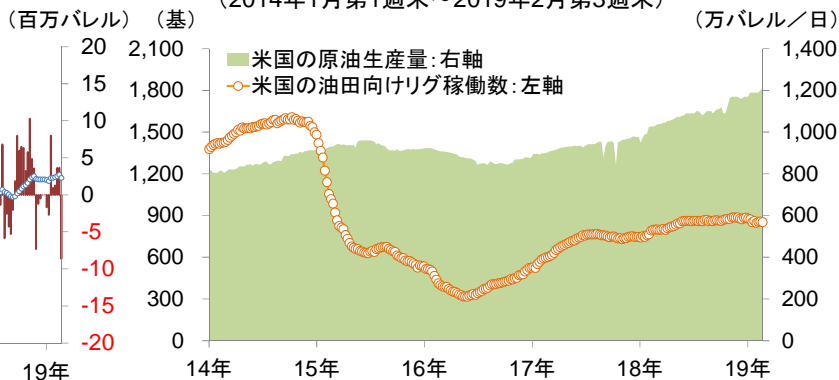
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2019年2月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2019年2月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2019年2月28日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。